

1 学校として目指す授業

主体的対話的な学びの過程で学力をつけ、わかった！できた！もっとやりたい！が高まる授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語は全体的に全国平均を下回る。情報の扱い方に関する内容や選択式・記述式の正答率が低い。 ・算数は観点別にみると知識・技能が全校平均を下回る。特に数と計算の領域が弱い。	・家庭では、決まった時間に起きている児童が少なく、家庭での学習時間がとても短い。 ・授業では、意見の交換をすることを楽しんでいるようだが、考えの違いを生かすことは難しい。

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析（小学校4～6年生）

理解度に関しては「どちらかと言えば分かる」という回答が多いものの単元テストの総得点達成率では80%程度で児童の感覚と実際の状況に隔たりがある。学習する理由について「楽しいから」という回答が自立、興味や関心が学習意欲を支えている。学校以外での学習の進め方は、復習型がほとんどで予習型は僅かである。また、疑問に思ったことを自ら調べる児童は少なく、主体的に学ぶ児童の育成が課題となっている。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析

全国平均正答率と比較すると、国語では「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域が低く、特に「漢字を書く」「文章を書く」の問題はかなり正答率が低い。算数では「数と計算」「図形」の領域が低く、特に小数、分数の計算、面積を求める計算が理解できていない児童が多い。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

体力テストでの本校の傾向（男女別）男子は、体力合計点では、半数の学年が都平均とほぼ等しく、半数が平均より低く結果となった。ソフトボール投げは、全学年で、都平均を上回る。反復横跳び、シャトルランは、全学年で都平均を下回る結果となった。女子は、体力合計点が、全学年都平均より低い水準となった。ソフトボール投げは、3学年が都平均を上回り、残りの3学年も都平均に近い結果となった。男子同様、反復横跳び、シャトルランは、全学年で都平均を下回る結果となった。本校の傾向としては、俊敏性、全身持久力に課題が残る。

3 児童の学力・学習状況等の課題

国語科「言葉の特徴や使い方に関する事項」で、特に「漢字を書く」「文章を書く」の得点率が低い現状は、平素の学習で文章構成をする際の語彙の少なさや漢字のたしかめテストの正答率にも表れている。これに対し、教科学習以外でも毎朝の「1分間スピーチ」や全校朝会ごとの学校長講話の要約等によって文章力の底上げを図るとともに、漢字学習では基本の演習量を増やす、既習漢字を活用する学習場面を意図的に展開する、などの対策をすすめていく。算数科では「数と計算」「図形」の領域が低く、特に小数、分数の計算、面積を求める計算が理解できていない児童が多い。この対策として、当該分野がかかわる学習場面での復習を充実させるとともに、児童が自己の課題を確認できる学習結果資料を複数配布する。これによって児童が随時自分の学習上の課題を認識し、市より配布のタブレットを活用して個々の課題に合った復習を日常的に行えるように配慮する。

【授業改善推進プランの活用法】

- ① 「1 学校として目指す授業」を設定する。  
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ② 「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- ③ 「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④ 「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤ 「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。
- ⑥ 12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。  
評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

確かな学力の定着と学ぶ意欲の向上を目指した「分かりやすい授業」「読書活動の充実」「タブレット型PCの活用」の推進。  
 具体的には、「読書貯金シート」の活用による読書習慣の定着、語彙力向上を図るための漢字学習の充実、俳句や詩の暗誦またはスピーチといった言語活動の充実、ミライシードを活用した個別最適が学習の推進、集中力・思考力・空間認知力を高めるためのコグニティブトレーニングに日常的に取り組んでいく。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・文字の習得、正確な読み取りができるよう、音読や読書活動を行い、想像力を高める。 ・順序良く書く力を高めるため、組み立てメモを活用させながら作文を書く。				・算数の基礎の計算能力を高めるため、計算カードを活用したり、ゲームなどを取り入れながら反復練習したりする。 ・文章問題を解く力をつけるため立式する際、図や絵で表す。			・一人一人は興味や気付きをもてるため、カードや思考ツールやタブレットを使用し、友達と比較したり意見交換したりして、自分の考えを深める。		・基礎基本である、歌う時の姿勢を正しくすること、口の開け方を身に付ける。		良さや工夫を具体的に誉め、伝え合う活動を充実させ、自信をもって表現できるようにする。					・基本的な動きを身に付けるため、カードを活用し、めあてや、振り返りを行う。 ・ルールを守り、仲良く運動する態度を育てるため、声掛けしたり、よかった点を見つけさせたりする。				自分の考えをもたせるため、具体物や絵の提示、動作化を行い理解を高め、ワークシートを活用し、互いに意見交換する。	
中学年	・既習した漢字を正しくかけるよう「ドリルパーク」などを活用し、学び直しをする。 ・音読や読書活動を手立てとし、正しく読み取る力や場主人公の気持ちなどを想像する力を育む。		・様々な資料や映像を用いて、興味をもたせ、情報を読み取る機会を増やすことで、資料活用能力を養う。 ・新聞やポスターなど様々な表現の方法に触れさせ、目的をもって課題に取り組ませる。またそれを使って交流する場を設ける。		四則計算の反復練習をする時間を確保し、基礎基本の定着を図る。問題場面の数量の關係に着目し、数量の關係を図や数直線などに表現したり、式の意味を読み取らせたりしていく。		・既習内容を基に考えることを提示していくことで、自ら考えようとする意欲を高める。・実験をする際は、問題をきちんと捉えたうえで物事を比較しながら予想をし、調べることや結果を分かりやすくまとめられるように指導する。			・リコーダーの指使い、くわえ方や指の抑え方、タンギングが定着していない児童がいるので、達成できるように指導する。		既習の用具や材料に合わせて、より柔軟な発想で表現できるように、鑑賞活動を充実させる。				・基本的な動きをもとにした発展的な学習を多く取り入れるために、児童が体の動かし方を考えて活動できるようめあてを明確に示したり、学び合いの時間を設け、児童同士でアドバイスしあえる環境を作ったりする。				・児童の考えを広げられるよう具体物や場面絵を積極的に用いる。また、動作化や役割演技を手立てとする。 ・児童が自分の考えを整理したり、振り返ったりできるようワークシートを用いる。		
高学年	「正しい漢字を書く」「文を書く」が特に苦手なため、ミライシードを使った1年生からの漢字の学び直しを行ったり。文章を書く学習を意図的に取り入れ、語彙力を増やす。		歴史的事象や地図、統計資料などから社会的背景や事象を正確に読み取れるよう、ICTや資料集を意図的に用い、資料を読み取ることに慣れさせる。またその資料からどんな背景を読み取れるか考えさせる。		四則計算の演習時間を確保し、基礎基本の定着を図る機会を確保する。学習欠課や学習状況を伝えることで、確実に課題に取り組めるようにする。		自然事象や実験結果を正しく分析し、そこから考えられることを言葉だけでなく図やグラフにまとめる指導をする。また、協働学習を通して、様々な見方・考え方に触れ、考えを深めるようにする。			・思いを文章にする力を、本校の研究重ねながらさらに伸ばす。曲や演奏を聴いて意見を出し合い、鑑賞する能力の育成や言語能力の充実をはかる。		表現の幅がより豊かになるよう、思考ツールを活用し、発想を広げたり深められるようにする。		調理実習や裁縫、家庭における実生活においてできるだけ体験を重視し、日常生活から意識して取り組めるようにする。		これまでの第5学年児童に比べ、基礎体力の低下がみられる。この対策として、熱中症に充分配慮した上で、体育科学習の中での運動量の確保と、学習外の場面への広がりをねらいとした活動を行う。		外国語を学習する必要感を持たせられる単元計画を行う。また、発表や交流はクラスの枠を超えて発表したり、ALTを活用したりするようにする。		ねらいとする徳目について、より「自分事」として考えられるように、教材に応じて役割演技や場の設定などの手だてを柔軟に採り入れた学習計画を立てて実践する。		